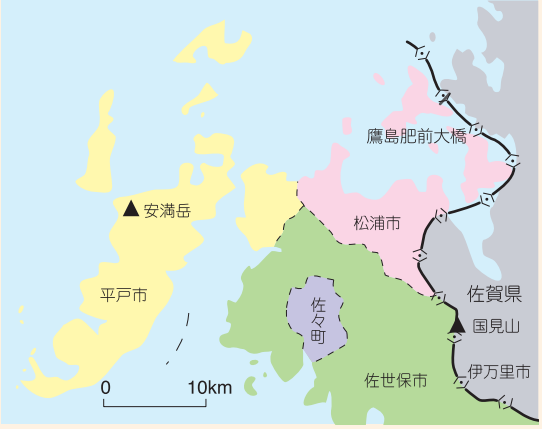
みんなで考えてみよう！
平戸・松浦市とその周辺地域にはどのような特色があるのだろう？

(6) 平戸市・松浦市とその周辺

ア　地域の自然

平戸市は，北東から南西にのびる約32kmの細長い島で，入り組んだ湾が多く32もの漁港がある。

島の北西部に，平戸市で最も高い安満岳があり，そのすそ野と湾沿いに農地が広がっている。



平戸・松浦市とその周辺

北松浦半島の海岸線は，日本を代表するリアス海岸であり，入り江は漁港となっている。内陸部の台地には畑地や茶畑が広がり，保養地やキャンプ場などのレジャー施設がある。また，国見山を源流とする県内で最も長い佐々川と豊かな水量の志佐川は，それぞれの流域をうるおしている。

イ　夢のかけ橋

1977(昭和52)年，平戸市民の長年の夢であった平戸大橋（平戸と本土を結ぶ）が完成した。島内の道路も整備され，最近では，1日平均約17,000台（令和3年）の自動車が平戸大橋を通っており，橋は市民の生活や経済の発展に大きな役割を果たしている。

平戸大橋　（提供:長崎県観光連盟）

1991（平成3）年には，平戸島と生月島を結ぶ生月大橋が，2009（平成21）年には，松浦市鷹島と佐賀県唐津市を結ぶ鷹島肥前大橋が完成した。

みんなで考えてみよう！
平戸・松浦市とその周辺地域にはどのような産業が発達しているのだろう？

ウ　まあじの水揚げと特産品づくり

この地域では，水産業が盛んである。特に，平戸市生月町はまき網漁業の基地として活気がある。佐世保市の小佐々町や鹿町町，松浦市の鷹島や星鹿では，波静かな入り江を利用して養殖をおこなっている。また，松浦市の調川には魚市場があり，まあじの水揚げ量が全国有数である特色を生かし，アジフライを名物とする取組が進められている。2019年（平成31年）には，松浦市が「アジフライの聖地」を宣言して，観光客を呼び込む新たな取組がはじまった。

農業の面でも，それぞれの市や町で町おこしの一つとして特産品づくりが進められている。松浦市では，稲作のほか，アスパラ

松浦アジフライ食べ歩きMAP　（提供:松浦市福岡事務所）

ガス，ブロッコリーなどの畑作やメロン，ぶどうなどのビニールハウス栽培がおこなわれ，関西や関東方面にも出荷されている。

また，平戸市などでは，肉用牛の飼育が盛んにおこなわれ，稲作に並んで多くの収入をあげている。

平戸市田平町，佐世保市江迎町，吉井町，北松浦郡佐々町のいちご，アスパラガス，メロン，佐世保市世知原町の茶など，各地で特産品づくりに力を入れている。

エ　新しい産業と町おこし

松浦市や北松浦郡では，1960（昭和35）年ごろまで石炭産業が盛んであった。その後閉山が相つぎ，この地域の炭鉱はすべて姿を消した。

閉山によって人口が減った市や町では，新たな企業をまねいて活気を取りもどそうと努力した。その結果，松浦市や北松浦郡の各町には，機械，プラスチック，縫製などの工場が進出した。1989（平成元）年には，松浦市に松浦火力発電所が建設された。松浦市福島町には，「日本の棚田百選」に選出された土谷棚田があり、秋には火祭りが開催され、県内外からの観光客でにぎわう。松浦市鷹島町では2012（平成24年）元寇の遺跡である「鷹島神崎遺跡」が海底遺跡としては国内初となる国史跡に指定された。

一方，平戸市では，2011（平成23）年9月，約400年ぶりに平戸オランダ商館が復元された。江戸時代初めに開設された平戸オランダ商館は，長崎の出島に移されるまでの約30年間，東アジアにおける貿易の拠点として重要な役割を果たした。復元された倉庫は，外壁が重さ約60kgの石材約21,000個を積み上げてつくられているなど，当時の姿を忠実に再現したものである。これを機に，観光客をもてなす新たな取組が始まるなど，平戸オランダ商館には，町おこしや国際交流の中核としての役割が期待されている。

MEMO